

九州ルーテル学院大学
九州女学院短期大学

結会会報

編集人 ▶ 結会会報編集委員会
発行元 ▶ 九州ルーテル学院大学
九州女学院短期大学
同窓会結会
発行所 ▶ 結会事務局
熊本市中央区黒髪3丁目12-16
TEL (096) 343-1600
印刷所 ▶ 小野高速印刷(株)

会
からの
ご挨拶

大学八期生 坂本和将



同窓生の皆様には平素より『結会』の活動にご理解、ご協力いただき誠にありがとうございます。会長を務めさせていただきます。おります大学八期生の坂本と申します。

四月から新社会人となった会員の皆様は職場の環境などには慣れてきましたか？ また、この会報をご覧になられている同窓生の皆様はお変わりないでしょうか？ 会長として皆様が変わらず笑顔で、益々活躍されることを祈るばかりです。

さてご存知の方もいらっしゃると思いますが、来年二〇二六年十月で学院は一〇〇周年を迎えます。これも皆様の今までのご理解とご協力があったからだと感謝しております。学院が進めている一〇〇周年事業として歴史ある学院の坂道の改修工事をはじめとする様々な計画も進んでおります。今までの歴史を大切にするとともにそれを礎とし、これからの学院の発展へと繋げていければと私は考えています。またこれを機に、会員皆様が大学や学院での日々を思い出し旧友と集い、尊い時間を過ごすきっかけになっていただければ幸いです。是非一〇〇周年事業へのご理解とご協力宜しくお願い致します。

一〇〇周年を機に私達『結会』は、まだまだ会員皆様に対して協力できることがたくさんあると考えております。様々な業種で活躍する会員の方々の応援や、同窓生での集まりなどで『結会』をもっと活用して欲しいと思いました。少しかもしれないですが会員皆様のお役に立てれば、皆様の活躍と共に『結会』の発展へと繋がっていくと思います。人と人をつなぎ繋いでいく、そんな『結会』にしていきたいので一緒に盛り上げていきましょう。今後とも『結会』を宜しくお願い致します。

学
からの
ご挨拶

学長 松本充右

A century of prayer guiding our future ——100年の祈りを未来のチカラに

結会会員の皆様には平素より大学の教育に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。早いもので、二〇二六年十月三日の学院創立一〇〇周年まで約一年となりました。一〇〇周年の環境整備事業として、これまで道幅が狭く、歩行者と車の往来時には危険が伴っていた校門からロータリーまでの坂道拡張工事が始まりました。約一年間の工事期間を経て、来年八月には学院の新しい顔となる姿に生まれ変わります。また、校門からの坂を上ったロータリーには、一〇〇周年記念日までの日にちを表示するカウントダウンボードが設置されました(写真参照)。大学においては、二号館のバリアフリー化や中庭に学生のための憩いのデッキスペースの設置を検討しています。

ところで今、大学を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。少子化に伴う十八歳人口の減少により、定員の確保に困難をきたしている短期大学を中心に学生募集停止や閉学のニュースを最近耳にすることが多くなりました。本学は幸いにも、この四月の入学者は定員の二五〇名を大きく上回る一九二名の新生を迎えることができました。しかしながら、一九九七年の九女短大から九州ルーテル学院大学への改組転換後



の二〇〇〇年代初頭には定員を大幅に割り込み、大学存続の危機を迎えた時期もありました。危機に際して、教職員一同が同じベクトルの元、少人数での質の高い教育を行う努力を重ね、小規模ながらも教育力のある大学として地域で存在感のある大学として生まれ変わることもできました。これからも、大学の建学の精神である『感恩奉仕』に則ったキリスト教主義の人格教育をさらに進めるため、大学の教育内容の一層の充実を図ると共に、地域や世界の発展に貢献できる人材の育成に力を注いでいく所存です。

九州女学院短期大学創立五〇年、そしてまもなく九州ルーテル学院大学創立三〇年を迎える今、社会の様々な分野で多くの卒業生が活躍されています。結会との連携を一層深め、卒業生に愛され支持される大学づくりを結会の皆様と共に進めていきたいと思っています。今後とも結会の皆様にはご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



活躍する卒業生

大学五期生

大塚 加奈



高校、大学と通ったこの九州ルーテル学院で、二〇二〇年四月から職員として働いています。私ごとですが二〇二〇年十二月に娘が産まれて、同じ敷地内にあることも園に通っていますので、学生として、職員として、そして保護者として学院に関わることができています。娘はクリスマス生まれ。なんとイエス様と同じ誕生日ということで、ルーテルには本当に縁があるなど感じています。

二〇二〇年四月一日、勤務初日の朝でした。満開の桜の木の下で、こども園から脱走した羊のメーコちゃんが草をもぐもぐ食べていました。学院の中に羊がいることを知らなかった私は大変驚きました。そんな春の和やかな風景に初日の不安と緊張がほぐれたこと、その時「わたしが来たのは羊に命を与えるため。しかも豊かに与えるためである」という学院聖句が思い浮かんだことを四月になるとよく思い出します。高校から慣れ親しんだ学院聖句が卒業後、〇〇年（年齢がばれてしましますね）過ぎてても頭に浮かぶということが嬉しく、母校で働く喜びを噛み締めた朝でした。

職員として働く中で嬉しいことと言え、卒業生の皆さんが「今日は仕事が休みだから」と遊びに来てくれる時ほど嬉しいことはありません。卒業後の仕事や家族の近況を話してくれたり、学生当時のことを一緒に振り返ったり。学生時代の面影もありつつ、社会に出て活躍している姿を見ると本当に嬉しくなります。学生さん一人ひとりが、在学中も卒業し

てからも私たち教職員にとっては希望の光なのです。

さて、卒業生の皆さんの大学での思い出の風景はどこでしょう。チャペルはどうでしょうか。ろうそくやステンドグラスなどの温かな光。讃美歌やチャプレンの優しい声、お祈りの時間など心がほっと休まる場所だったでしょうか。それともやはり正面の坂道でしょうか。長い道のりの自転車こいでやっと着いたところで、最後の最後で待ち構えている皆でした。私は学生時代、特に遅刻しそうな朝は、ダッシュで坂を登り、そのまま四階の教室に着く頃にはとても疲れていた記憶があります。

もうすぐ一〇〇周年を迎えるにあたって、この坂をどれだけの生徒や学生が登って来ただろうと、ふと考えることがあります。一〇〇年の長い歴史の中で変わらないものは、感恩奉仕の温かな心と、正面の坂かもしれません。長い上り坂は決して楽ではありません。息が切れることも途中で立ち止まりたくなることもあります。ですが一歩一歩自分の足で歩くと教室に辿り着きます。小さな一歩でも積み重ねていけば前に、上へと進んでいきます。卒業後色々な出来事に心がくじけてしまいうるようになることがあるかもしれませんが、在学中に坂を登ったように、自分の一歩を大切にして人生を歩んで欲しいと願っています。大学の風景を懐かしく思い、学校にたまには行ってみようかと思ってくたさると嬉しいですね。いつでも私たち教職員は皆さんの帰りを待っています。

活躍する卒業生

大学二十五期生

田上 舞美



〔小学校教師〕

二〇二四年度卒業生（二十五期生）の田上舞美です。現在、熊本市の小学校で二年生の担任教師として働いています。今回は、会報紙に寄稿する機会をいただき、学生時代を振り返って思うことと、社会人になって感じることにしてお話させていただきます。

まず、大学生生活を振り返って思い浮かぶ言葉は「時間」「経験」「感謝」の三つです。学生時代は、とにかく自由に使える時間がたくさんありました。講義や課題、サークル活動やボランティア活動など、多くのことに取り組んでいたため、自由な時間は少ないと感じていましたが、振り返ってみると、多くのことに挑戦し、経験を積むことができていました。

私は学生時代、チャペル委員会や手話サークル、サポーターSHIPS（障がいのある学生の授業等サポート）などのサークル活動に加えて、多様な方々と関わるボランティア活動をしていました。現在、小学校教師として多様な児童と関わったり、保護者の方とお話をしたりするときに、学生時代に経験したことを生かすことができていると感じています。

学生時代に様々なことを経験して自分の「得意」を増やすことで、社会人となった今、楽しみながら仕事をすることができているのではないかと思います。

このように、学生時代は経験を積み場がたくさんあり、困ったことがあれば相談できる体制があったため、安心して挑戦できていました。そのことに感謝すると同時に、小学校教師とし



て子どもたちが安心して挑戦することのできる環境をつくることを目標に、日々奮闘しています。

次に、社会人（小学校教師）となって感じることにしてお話します。当たり前かもしれませんが、「本当に先生になったんだ」と実感しています。大学入学以来、小学校教師になりたいという気持ちを持ち続け、四月から実際に働き始めることを理解していたつもりでしたが、始業式の日子どもたちが登校して、静かに前を向いて、自分の話を聞く姿に驚きました。嬉しく思うと同時に、子どもたちが成長するために教育の場を設定していくという責任を感じ、背筋が伸びる思いでした。

現在は、子どもたちがいきいきと学ぶことのできる授業の進め方や授業に集中するための配慮、保護者の方との連携など、大学で学んだことを少しずつ生かしながら働くことができています。まだまだ先を見通して効率よく仕事をすることはできていませんが、周りの先生方に助けていただきながら、楽しく仕事をしています。「先生、キャベツが食べられるようになった」「一年生にやさしく声をかけられることができた！」など、日常生活の中で子どもたちは「挑戦」を続けて、できることを増やしています。自分も九州ルーテル学院大学の卒業生であることを誇りに思い、学んだことを仕事に生かしていきたいです。

まずは、自分にできることから少しずつ挑戦し、小学校教師として楽しみながら働いていきたいと思っています。

7月26日[★]大学4～7期生の 同窓会を開催しました[★]



二〇二五年七月二十六日(土)、
本学にて同窓会(四～七期)が開催
されました。清重元学長・名誉
院長による心温まる礼拝から始ま
り、続いて松本学長より、現在の
九州ルーテル学院大学および九州
ルーテル学院の現状と今後の展望
についてご説明がありました。
礼拝後はキャンパス内の見学を
行い、懐かしい景色のなかで参加
者は旧交を温めつつラウンジ・コ
モンズへ移動しました。世代や学
科を越えた交流が和やかに行われ、
笑顔と感謝に満ちたひとときとな
りました。



8月9日[★]教職同窓会を開催しました[★]

二〇二五年八月九日(土)にKKRホテル
熊本にて、教員となられた九州女学院短期
大学および九州ルーテル学院大学の卒業生を
対象とした「教職同窓会」を開催しました。
教職同窓会は、卒業生の縦横の情報交換や
ネットワークの強化を目的としています。
当日は卒業生三十一名、旧・現教職員二十
名の計五十一名が参加され、当時の思い出話
や近況報告など終始和やかな会となりました。
パトリック・ベンケ先生のお祈りから始
まり、松本学長より現在の本学および本学
院の現状と今後の展望について説明がありま
した。

途中に行われたスピーチでは、当時のエピ
ソードに会場全体が盛り上がる場面が印象
的であり、卒業後の積もる話や、近況など
を語り合い、楽しいひと時となったとともに、
学校間の繋がりも築かれたことと感じます。
今回、ホームページとご案内文の送付(現
住所が把握できている方のみ)を中心とした
開催周知になり、ご案内が行き届いていない
方もおられ、大変申し訳ありませんでした。
就職後の転職や転居に伴い、郵送先が不明
になられているケースが多発していますので、
住所変更の際は四ページ下の同窓会名簿内
容変更(氏名・住所)からお願いいたします。



ホームカミングデーが開催されます

11月3日(月・祝)にホームカミングデーが開催されます。音楽イベントや抽選会などが行われる予定です。今年も皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

11/3
(月・祝)
開催!!

100周年記念グッズも販売しますので
ぜひご来場ください。



年会費納入のお願い

会則に基づき、年会費2,000円の納入をお願いします。年会費は、会報作成や卒業記念品の購入に支出しています。

また、各学年およびサークル等で同窓会開催の際の食事代や会場費などの支援(年間1人上限2,000円)を行っています。予算の都合上、開催される場合は、事前に

「結会」メール: yukai@klc.ac.jp

までご連絡ください。

※参加者名簿や領収証(写)、ホームページ掲載用写真や報告文章などが必要です。

振込先

肥後銀行 子飼橋支店 普通 1842601

九州ルーテル学院大学同窓会

九州女学院短期大学同窓会結会

入金の際、下記の例に従いお振込みをお願いいたします。

例

タン2クマモトユイコ(短大2期生 熊本結子 様の場合)

ダイ2サクライマナミ(大学2期生 櫻井真奈美 様の場合)



総会のご案内

日時 2025年11月30日(日) 11:30受付・12:00開会

場所 ラーニングコモンズ

※出欠報告により、人数分のお弁当を準備します。

申込 同封の案内通知のとおり

(TELまたはFAXまたは二次元コードから)

住所不明の同窓生には通知が届かないことがありますので、皆さまもお誘いあわせのうえご出席お願いします。

※切
2025年
11月14日(金)
必着

同窓会名簿内容変更(氏名・住所)

右記の二次元コードより、変更ができます。

すでに住所変更があり、同窓会からの通知が届かない

同窓生が身近にいらっしゃる場合も、ぜひこちらの変更手続きを勧めてください。



問い合わせ先

九州ルーテル学院大学 九州女学院短期大学同窓会
「結会」

事務局: 川田(学内勤務)

TEL 096-343-1600 FAX 096-343-0354 E-mail: yukai@klc.ac.jp

